

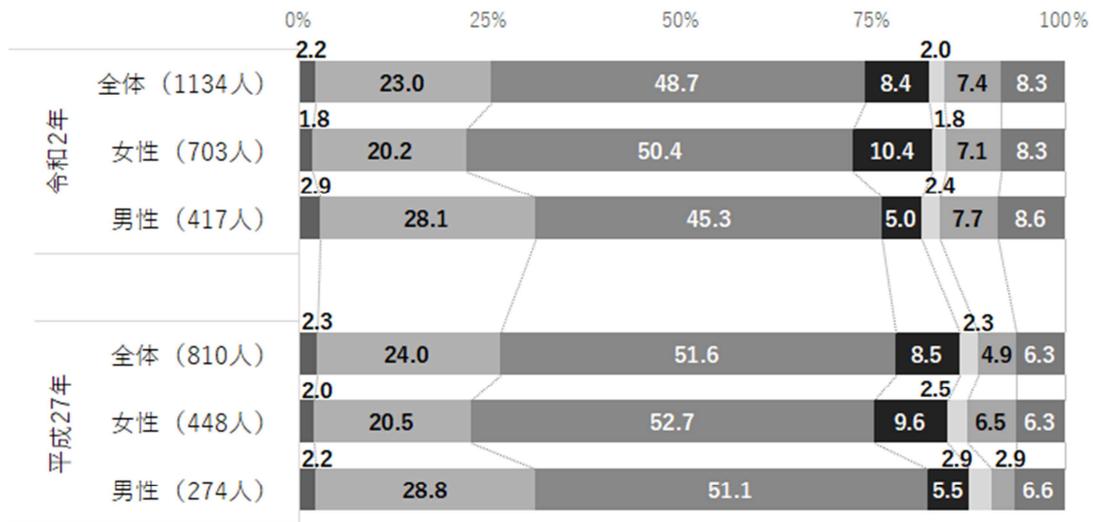
7 ワーク・ライフ・バランスについて

(1) 仕事と家庭生活または地域活動について

問9 仕事との関係において、家庭生活または町内会やボランティアなどの地域活動をどのように位置づけるのが望ましいと思いますか。また、あなたの実際の生活は、どれに当てはまるとお考えですか。

(ア) 理想の生活

図II-7-1 仕事と家庭生活または地域活動について－理想の生活－[全体、性別]（前回調査比較）



- 家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する
- 家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる
- 家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる
- 仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させる
- 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する
- わからない
- 無回答

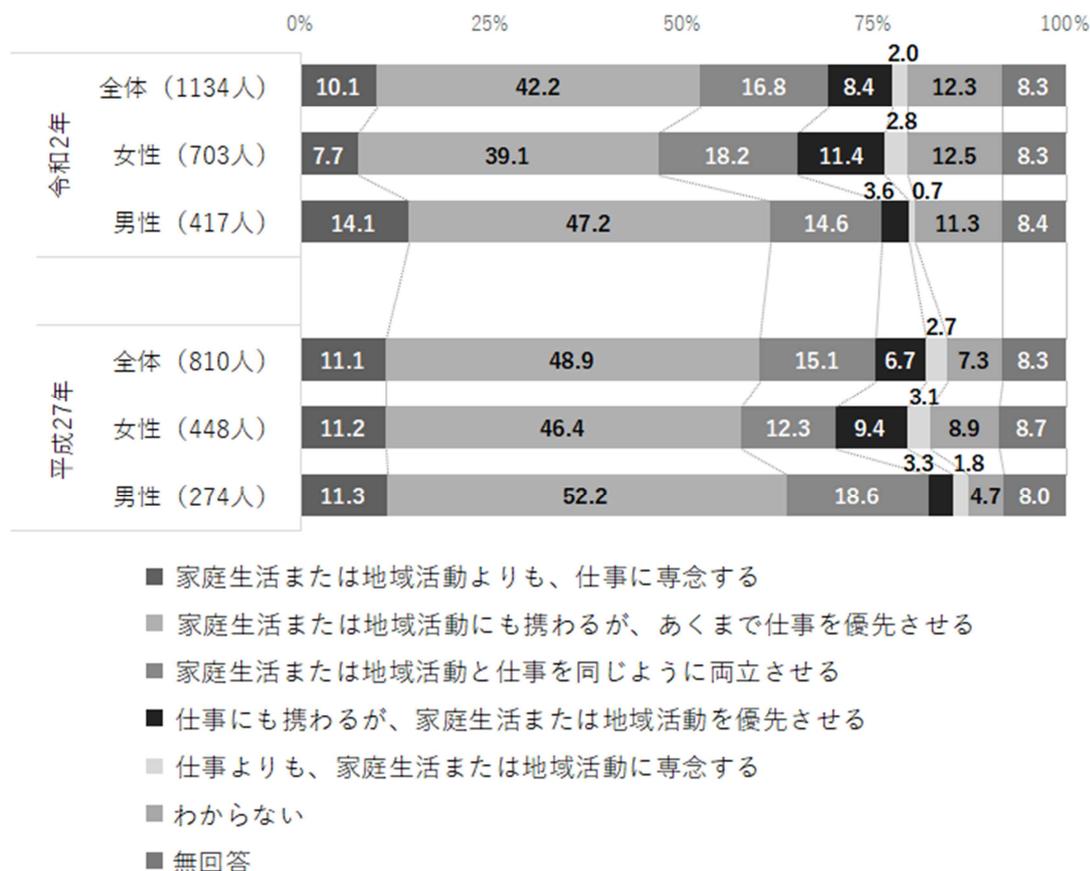
仕事と家庭生活または地域活動との両立についてたずねたところ、「理想の生活」については、「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」が48.7%で最も高く、次いで「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が23.0%だった。

性別にみると、「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」は女性の方が男性よりも7.9ポイント低かった。逆に「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」「仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させる」は、いずれも女性の方が男性よりも約5ポイント高かった。

前回調査と比較しても大きな変化はないが、男性では「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」の割合がやや減少している。

(イ) 実際の生活

図 II-7-2 仕事と家庭生活または地域活動について－実際の生活－[全体、性別] (前回調査比較)



仕事と家庭生活または地域活動との両立について、「実際の生活」はどうであるかたずねたところ、「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が42.2%で最も高く、次いで「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」が16.8%だった。

性別にみると、「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」は女性が男性よりも8.1ポイント低く、「家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する」も女性が男性よりも6.4ポイント低い。一方で「仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させる」は女性が男性よりも7.8ポイント高い。女性は家庭生活や地域活動を優先し、男性は仕事を優先している傾向がうかがえる。

前回調査と比較すると、「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」の割合は男女とも減少している。「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」は、男性では減少しているが、女性では増加している。

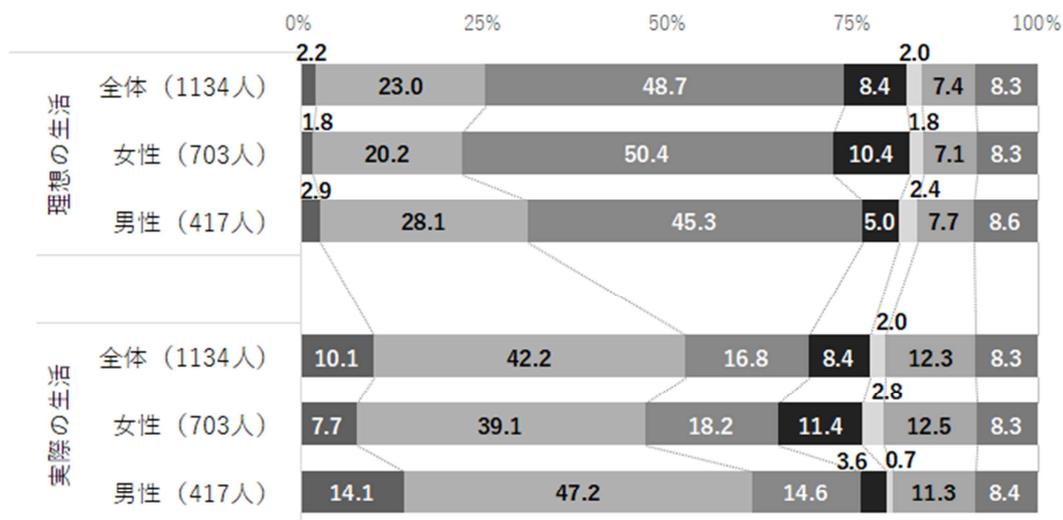
(ウ) 「理想の生活」と「実際の生活」の比較

「理想の生活」と「実際の生活」を比較すると、全体では48.7%が家庭生活または地域活動と仕事との両立を望んでいるが、実際に両立させているのは16.8%で、「理想」と「実際」との間には31.9ポイントの開きがある。また、家庭生活または地域活動よりも「仕事に専念する」「仕事を優先させる」ことを理想とする人の割合は25.2%だが、実際には52.3%が「仕事に専念する」

「仕事を優先させる」としている。

理想は「両立」だが実際は「仕事優先」であるのは男女に共通しており、ワーク・ライフ・バランスを実現できていない状況がうかがえる。

図 II-7-3 仕事と家庭生活または地域活動について－「理想」と「実際」の比較－[全体、性別]



- 家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する
- 家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる
- 家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる
- 仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させる
- 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する
- わからない
- 無回答

(2) 男性が家事、育児、介護等に参加するために必要なことについて

問10 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。

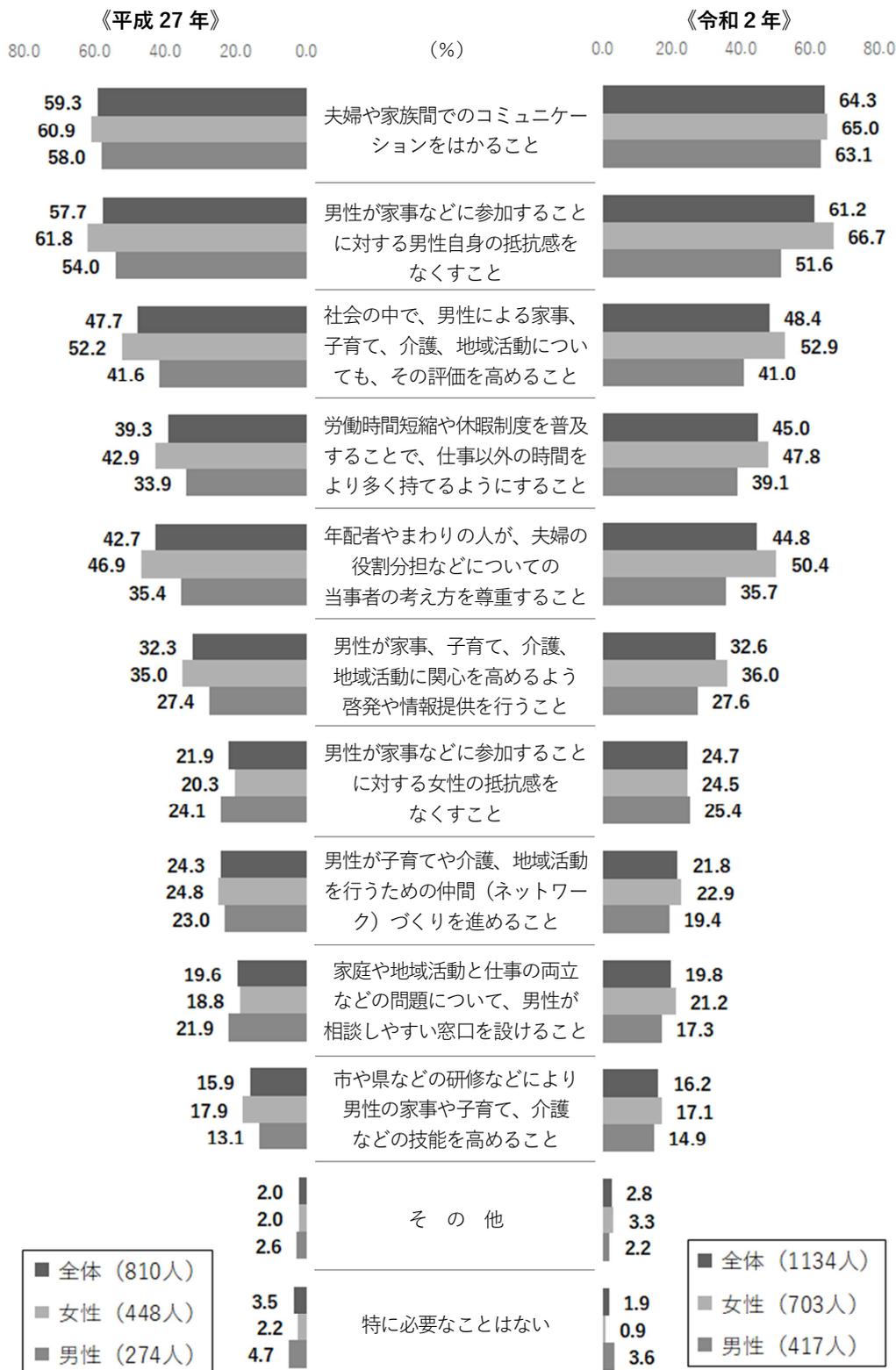
男性が家事、育児、介護等に参加していくために必要だと思うことをたずねたところ、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをはかること」が64.3%と最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が61.2%だった。

性別にみると、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は女性が66.7%で、男性よりも15.1ポイント高くなっている。同様に「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」は14.7ポイント、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」は11.9ポイント、いずれも女性の方が男性よりも高く、男女間の認識の違いがみられる。

前回調査との比較では大きな違いはないが、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事

以外の時間をより多く持てるようにすること」「夫婦や家族間でのコミュニケーションをはかること」は5ポイント以上増加している。「男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりを進めること」は、前回よりも2.5ポイント減少している。

図II-7-4 男性が家事、育児、介護等に参加するために必要なこと[全体、性別]（前回調査比較）



「その他」の内容

《女性／20 歳代》

- 育休制度への周囲の理解や取得しやすい雰囲気
- 当直なしの定時、いつも定時。
- 育った家庭環境が一番影響する。

《女性／30 歳代》

- 収入保障！！生活できるだけのお金がなければ変わらない。
- 時間的にも金銭的にも今より充実した生活環境を整える為の最低賃金の値上げ（労働時間を短縮しても保障される給与体制など）
- 職場や上司の理解・協力体制をつくること。
- 若い女性は、男性の家事には、抵抗感はないが、60 代以上の女性は、抵抗感がある人が多いと思う。
- 共働きであれば家事・育児が女性の役割という考えをなくすこと。手伝うという考えをなくすこと。

《女性／40 歳代》

- 男女の賃金差がなければ、自然と分担できる。
- 職場での休暇制度、時間短縮等の取得をオープンにする。どの位の人がとっているのかを社会にオープンにすること。
- 高齢者の人達へ認識させる。女性がする事と思っている人が多いため。
- 男尊女卑、長男優遇、等の思想をなくす。
- まわり地域住民（特に年配の方々）の意識を変える様なまちづくり。

《女性／50 歳代》

- 技能は女性でも最初からあるわけではない。子育て・介護・地域活動にかかわりながら覚え工夫している人が大半。男性の多くが何が必要かわかってない。考えようとしていない。考える人は男性でもちゃんと出来ている。かかわる事の大切さに気づかせる事。
- パートナーが大変な時は手伝い支え合う気もちを持つことの大切さを教える。家庭内の雰囲気づくりができなければ、仕事でも求めるのは難しい。
- 意識の問題。よその家庭は、おくさんが何でもしていると言われる。

《女性／60 歳代》

- 教育の場、家庭内で当り前の事として学んでいくこと。
- 義務教育中に教え、参加させる。
- 男性の意識改革
- 男性は女性の家庭内における仕事の賃金を正当に評価し認めるべきだと思う。
- 男女とか性別でなく、人として出来ることを、お互いにやっていく、思いやりの心が大事だと思う。
- 若いおとうさんは、昔と違って女性がやっていた仕事を半分位は、手伝っていると私は思

います。

- 地域活動が多すぎ、回覧板やらなにやら必要ないことが多い。単純化して、市役所がまとめし活動する。それだけの給料払いよるのだから仕事をして下さい。

《男性／20 歳代》

- 結果として、住民税が高いから男性が働く。

《男性／30 歳代》

- 年配男性の女性に対する態度、言葉使い、考えを改め、若年層がマネしないような、人権を尊重し行動できる人を増やしていく。
- それぞれで良い。

《男性／40 歳代》

- 家事は家の事なので家族がするのは当たり前、育事は育てる事なので親として当たり前、介護も在宅が理想だが施設などの連携がしやすい社会の実現、地域活動もそこに住んでいるから当たり前という人の育成

《男性／50 歳代》

- 新しい感覚を持ち制度がそれぞれに合った拡充が、制定が必要と思われます。
- 男子の育休取得の理解。これも当人の権利主張ばかりではなく上手にする工夫が必要
- 共にわけあい。思いやりの心
- 夫がでしゃばる必要がない。おかあさんが「子そだて」出来やすい環境を造って下さい。